

第1 A分科会 教育課程に関する課題

「西都市中学校再編に向けて～中学校統合に向けての見通し～」

西都支会

1 主題設定の理由

西都市では、人口減少が進み特に児童生徒の減少が著しいため、市内5中学校を妻地区の1校に再編し、2026年(令和8年)4月に開校する計画を進めている。これは、全国的な少子高齢化に伴う人口減少社会を迎える上で、日本中で起こりうることを考える。そこで、令和3年度から令和7年度までの中学校再編に向けた取組について、現時点での進捗状況を考察することで、これから中学校再編を計画している他の地域や学校への一助となれればと考える。

以上の事から、教頭として今後主体的に関わっていく場面を想起し、よりよい形で携わり、リーダーシップを発揮することで学校再編の力になると考え本主題を設定した。

2 本稿のねらい

中学校再編に向けて、市内小・中学生の学力の均等化をはじめ生徒指導面等での共通理解を図り実践していくことで、他地区における学校統合に向けての見通しをもつことができるようにしていく。

3 中学校再編に向けた共通実践

(1) さいと学

西都市では、一昨年度より「さいと学」を見直し、小学校・中学校ともに各学校の実態に応じた内容を検討したり、SDGsに関する内容に変更したりするなど、主体的・協働的な学びを深めていく計画を進め、昨年度より実践できるようにしてきた。

① さいと学アワード

西都市内全ての中学校を対象に、昨年度(令和4年度)より、「さいと学アワード」を開催している。

各学校で、生徒が自ら課題を見つけ、その課題を解決していくために、情報収集したり、協働的な学びの中で討論をくり返したり

し、まとめ上げたものをプレゼンテーションしていく。生徒は、インプットからアウトプットの作業を行い、学びの深化を図っていく。

その際、担当教諭が関わっていくことになるが、市内の教頭が「さいと学アワード」に関する情報の共有化を図り、学校現場に落とししていくことで、市内全中学校の実践の向上が図られると考える。

また、「さいと学アワード」を通して、各学校が抱く問題や地域の伝統などに気づき、未来の西都市を築いていく意識付けにつながっていく。

② キャリアみらいゼミ

市内全中学1年生が一堂に結集し、妻高校生の学びの在り方や職業人の西都で暮らし働くことの意義や魅力について、パネルディスカッションを通して考えさせる。また地域に根差した企業等の方々を講師として、ブース・セッションを通して、直接郷土で暮らし・働く魅力について語り合う場を設定している。その際に、教頭が地域企業等との連絡調整を担い、子どもたちが将来における自己実現や社会貢献をしていこうと考えることができるようにしていく。

(2) 校則検討委員会

市内中学生(各学校代表生徒)が校則再編委員として関わることで、校則を身近なものと感じ、生徒指導面の安定にもつながると考える。また、生徒自身が自分たちの学校に対しての意識を高めていくことができる。教頭としての携わり方としては、先進的な取組をしている学校からの情報などを入手し、生徒指導主事等と学校運営においてよりよい意見交換を実施していく。

(3) 中学校再編に向けた学力向上および均等化に係るプロジェクト事業

市内の中学校では、昨年度(令和4年度)よ

り、学年末の定期テストにおいて各教科共通問題を作成し、令和4年度は約30%、令和5年度は約50%の割合で実施する予定である。共通問題の正解率及び平均点の情報を教頭間で共有し、各校における課題や重点項目等について精査する。その課題解決に向けてリーダーシップを発揮しつつ、学校再編に向けて携わっていくことが必要となってくる。

(4) 学びの確認（学びの保障期間）

西都市では、3学期末に小学校で20コマの学びの確認の時間、中学校では2週間で10コマ以上の時間を確保している。「学びの確認」を確実に実施することにより、中学校が統合された際、各学校間の学力の均等化につながっていく。そこで、各校での運用ではあるが、中学校再編に向けてどのような取組を行っているかの情報共有を教頭間で行い、共通内容の実践と各学校の実態の応じた内容の実践を通して、学力の均等化を図っていく必要がある。

(5) 校時程の工夫

中学校再編に向けて、妻中学校では校時程の工夫を実施している。生徒の登校は、午前8時までで、午前8時15分までは教室で静かに過ごし、朝の会からの授業開始となっている。また、昼休みについては、30分間とし、職員休憩の残り15分間は放課後に設定がしてある。ここ数年、この校時程で実施してきたが、職員からの意見で、生徒が朝から落ち着かない状況が続いているため、令和6年度からの校時程の在り方について模索中である。各校の教頭及び教務主任で相互連絡・協議を行い、令和6年度から各校共通の校時程で学校運営に携わることができるようにしていく必要がある。

4 中学校再編に係る教頭としての関わり

中学校再編に向けて準備が着実に進んでいるものと思われる。また、再編に向けて整理していくことで、教頭として取り組むべき点に気が付くことができた。

(1) 閉校式・開校式等式典に関わる事

令和7年3月末までに、各校の閉校式の準備

が必要となってくる。式典の期日設定や準備・催し、来賓招待・案内状準備・各機関との事前打合せなどの外部との折衝が教頭には求められるのではないかと考える。開校式については、市内の教頭会などで関係各所と連携を図りながら、早めに企画・準備を進めていくことが望ましいと考える。

(2) PTA 組織との連携

式典等でもPTAの協力を得ることになるが、中学校再編前後のPTAの在り方についても整備していく必要がある。各中学校の様々な学校行事やこれまでの協力体制について整理していかなければ、スムーズなPTA再編とはなり得ない部分も出てくるのではないかと、また、その際に繋ぐ役としての教頭の在り方が必要となってくると考える。

(3) 地域学校協働活動

地域の方にとって、その地域の学校がなくなることで、地域と学校とのつながりが希薄になることが予想される。そのため、中学校再編に際し、これまで継続してきたことをよりよい形として、教頭が中心となって今後も地域との取りまとめを整理していくことが必要となってくる。

また、この2年間は、校区内の小学校との連携も非常に意味あるものになってくる。そのためにも、小中合同での連携を深めていく必要がある。

5 今後の課題

学校再編までの残り約2カ年間で、各中学校間の生徒の学力の均等化・生徒指導に関する共通理解及び閉校に向けた準備や企画立案を関係各所と相談しながら中心の実働を担うのが教頭としての在り方と考える。また、同時に再編中学校の開校及びその後の学校の在り方について様々な面からの整備・整理が必要となってくるので、校長のリーダーシップを支えることができるような教頭としての在り方が求められるのではないかと考える。また、日頃の外部折衝能力を発揮し、多方面における企画・立案・折衝能力の発揮をしていくことが望ましいと考える。